

タチウオ釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

この時期、東京湾、大阪湾をはじめ各地の海で釣れ盛っているのがタチウオ。
釣って楽しく、食べて美味しい魚なので人気が出て当然です。



釣って楽しいタチウオ



食べて美味しいタチウオ

タチウオは捕食対象となる小魚を追って群れで行動する魚で、小魚が集まりやすい場所にタチウオも集まります。

東京湾でいえば、観音崎沖、走水～猿島沖、富津沖が、大阪湾でいえば明石～垂水沖そして泉南沖が一級ポイントとして知られています。

シーズンになるとそんなポイントにはタチウオを求めて釣り船、プレジャーボート等が集結し、たくさん釣ろう、大物を釣ろうという人々で海上は大変活気づきます。



走水～猿島沖のタチウオ船団 空撮

ここで気になるのが、タチウオ船団の密集度とその危険性です。

先日も接触事故が起こっても不思議ではない船間距離で大型釣り船の間に入り込んで釣っているプレジャーボートを見掛けました。

実は過去に私自身も十分に距離を確保していたにもかかわらず、釣っているうちに接近してしまい、釣り船側から「近づくといけないよ〜!」とマイクで注意されたことがあります。

スパンカーやスラスターを装備する釣り船とそれらを装備しないプレジャーボートでは流れ方が異なるので、狭いエリアに両者が混在すると接触事故にも発展しかねません。

タチウオ狙いではそれぞれの船長が良い魚群反応の上に船を寄せようと魚群探知機の画面を凝視している状況であり、本来やらなければならない” 見張りの励行 ” がおろそかになりがちで、とても危険な状況です。

ただでさえ、大型の釣り船は死角が大きく、小さなボートが死角に入り込んでしまうとその存在に気付くことができません。

万一、海難が発生してしまったら楽しいタチウオ釣りが台無しです。



タチウオ船団

以上のようなことを踏まえ、ボートアングラの皆さんは以下の項目を守りましょう。

- 釣り船には近づき過ぎない
- 自艇の存在に気付いてもらえるように工夫する(例: 旗棒を高く掲げる)
- 見張りの励行

海は誰のものでもなく、誰もが自然を享受できるかけがえのない場所です。

釣り船とプレジャーボートが共存していくためには、互いが相手を思いやりながら、最低限のルールやマナーを守っていく必要があります。

釣ることだけに夢中になり、竿先や魚探画面を凝視し、見張りを怠ることがないように心掛けて頂けたらと思います。